

いる。掃除当番については、利用者一人ひとりが自分にできる事を分担して実施。掃除当番、日直も含め、通院や入浴などで不在の場合は「（トイレ掃除など）私がしようか」「（日直）僕が言います」等、利用者間で板書をみて気づき、フォローし合うことが増えていることはここ数年の変化である。利用者全員が内容や方法は違えど、それぞれが少しずつ役割を担っていることは大きい。

当番表の変更、洗濯場手伝い利用者割りについては、利用者状況と利用者からの要望により、上半期1回ずつ変更、下半期は3月に次年度話し合いを行った。この他、給食会議に班の代表として参加（議事録記入者も含む）、班に戻ってから発表や伝達することも、役割を実感し責任感や達成感につながっている。

年間の反省としては、新型コロナウイルスの影響があったとはいえ、行事や活動（作業）など全てにおいて、利用者への説明が遅れがちであったこと、期日設定などの先の見通しを示すことが出来ず、不安定さを招いたことがある。工賃支給日のふりかえり時に、利用者一部からの要望を全体で話し合う場を持ったり、当番の見直し、金銭練習やどぎゃん会の事前聴き取りなど、話し合いの場を有効に活用するという点については、不十分であったため次年度も継続とする。

② 利用者に応じた生活支援を行い快適な生活が送れるようにする。

布団干し、居室掃除（押し入れ・エアコン・棚等）、タンス整理（衣替え）、寝具の確認（入れ替え）と項目を定めチェック表に記載。布団干しで、入所女性2名は新棟居室でベッド利用のため、敷き布団以外、旧棟男女居室と地域交流ホーム2階の利用者は布団干し購入後、定期的に干すことが出来た。感染症対策のため、在宅2名が別室での活動となった期間は、職員も入出荷以外で3名いることが少なかったため、グループホーム利用者の生活支援が不十分だったという上半期の反省から、職員2名で入所・グループホームと区別せず、利用者を男女にわけて交代でグループホームに移動して生活支援を行ったり、職員と生活支援を行う利用者以外は、映写会にしたりと方法を変えて下半期は対応した。各棟分離期間は、特に地域交流ホーム2階居室の3名を重点的に支援した。毎年、事故や要配慮行動に注意を払いながら、人員配置や利用者割り振りを調整したり、時間の確保や回数を増やせるかが課題であったが、新型コロナウイルスの影響により、作業を中止したり、活動自体を自粛した期間が長かったため、個別に対応する時間と内容については良かった。次年度はチェック表を改定し、季節や月ですべき生活支援を、時期を逃さず実施できるようにする。

③ 社会資源を活用し社会参加を行う。

予定していた班外出が2回とも実施できなくなったことで、利用者への聞き取りにより1回目は園内でのカラオケ大会、2回目はビンゴ大会とし、いずれもテイクアウトの昼食会を組み合わせ活動棟内で実施した。季節行事についても、一時的にリスクレベルが下がった七夕のみ、数年ぶりに高森湧水トンネルへ出掛け、マスク着用の上、数名毎に時間差をつけて見学することができた。担当利用者の園外出は上半期が1回ずつ、下半期は外出・外泊中止が解けた期間に外泊できた利用者と在宅利用者2名を除いた、他8名が1回ずつ実施できた。事前のグループ毎の話し合いでは、行きたい場所、食べたい物等、多くの意見があがり、利用者間で話をまとめることも出来ていた。グループによっては、職員は話し合いの見守り程度にとどまり、資料の提示や、予約、時間の調整を行うだけで実施に至ることもできた。外出前には、外出時の注意事項、感染症対策について、世間の状況等を説明し利用者の理解も得ることが出来ていた。ドライブのみでコンビニへの立ち寄りも出来ない状況となった際には、外に出たい思いから通院に結びつけようとする声も聞かれた。

利用者アンケートは上半期・下半期共に1回ずつ実施。アンケートは、一人ずつ個別にゆっくり聴き取る時間を設けた。文字が書ける利用者は、まずは自由に思いを書き、その後の会話からくみ取った意見を職員が書き、それを写したり代筆する作業を行った。過去の映像やアルバムから、状況を思い出しながら、それぞれがじっくり考えて書いたり、伝えたりする場面が印象的だった。

- ・5班のみんな一緒に食べたかった（行事など）
- ・（お弁当ではなく）みんなでりょこうにいきたいです

・コロナがきえたらいっぱいくりょこういきたいです。

上記のように、利用者間の会話でも「ことしは（旅行に）いけるかな」とアルバムを見ながら懐かしむ場面が強く印象に残っている。コロナ禍で日頃の生活はもちろん、外出や外泊いろいろな面で我慢を強いられている思いを感じると共に、当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなっているこの生活が、今後少しでも状況が改善され、アンケートに書き込まれた意見や想い、聴き取った気持ちなどが解消されるよう考えた。また、感染症の状況に左右されることなく、気分転換や活動意欲につながるよう、関わりや会話から想いや意思を聴き取り実現に向けた支援を実施する。

環境整備・洗濯班

環境整備班

① 支援員との協力による衛生的な生活の場の整備と整理整頓

支援員は朝の掃除の時間と活動に組み込んである生活支援において居室、トイレ等の掃除を実施。環境整備班で他全般的な掃除を実施し、衛生的な環境が維持できるよう努めた。

② 利用者さんが過ごしやすい生活環境の整備

洗面台やトイレ等、気持ちよく使用することができるよう、清潔な状態を維持している。きれいな状態を保つことで嫌な臭いもなく、過ごしやすい環境を提供することが出来た。

③ 清掃と消毒による感染症予防

感染症予防のため、掃除と合わせて消毒することは日常の取り組みとして出来た。

④ スケジュールに基づいた清掃の質の保持

日常の清掃は予定に沿って実施。上半期出来ていなかった大掃除を年末に期間を設定し、火元責任者により実施した。

洗濯班

① 利用者の衣類・寝具等を洗濯し衛生的で快適な環境を整える

衣類や寝具で交換が必要と思われる物は支援員へ連絡し、衛生的で快適な環境となるよう対応してきたが、支援員のその後の対応により未だ不十分なケースがある。

② 汚物除去機（高温洗浄）の活用による衛生管理と感染症予防

汚物除去機の活用により、清潔な衣類、寝具とすることができ、感染症予防にもつながっていると思われるが、汚物衣類にオムツが紛れていたりと、その取り扱いには支援員によって個人差があった。

③ 利用者に応じた洗濯作業の支援

洗濯作業をされる班の支援員と協力し、個々の能力に応じた役割のもと対応することが出来た。

④ 利用者処遇に関する申し合わせ事項の遵守と確認

衣類や寝具に拘りが強い利用者への関りについて、支援員と調整を図りつつ対応することが出来、安定している。

⑤ ハウスキーピングとの協力による季節に合わせた寝具の整備

担当者による実施予定が把握できず、慌てて対応することになったり、気候に合わせたタイミングを逸することがあった。

⑥ サービス向上委員会との協力による適切な衣類管理（古着の連絡・衣替え等）

破れた衣類や古くなった衣類は担当職員へ直接返却し対応している。また、記名の無い衣類については委員会へ委ねている。コロナウイルスの予防対策により、外泊等が中止になったことで、名無し衣類の数は例年と比較すると少なかった。

⑦ 洗濯場の環境整備（室内清掃・機械管理等）

洗剤の購入先を見直したことにあわせ、保管場所も洗濯場にしたことで出し入れがしやすくなった。乾燥機等の不具合も生じたが、定期点検を入れつつ早急に対応している。機械の故障は未だ繰り返し起きている。日常のメンテナンスを継続し、業者との連絡を密にし保守に努める。

医務

- ①支援スタッフとの連携、身体面・精神面の状況把握と医務的観点から支援上必要な注意点の周知
支援職員から利用者の状態報告を受け早めに受診するようにした。受診後、必要な対応・処置については各班に申し送り行っている。
- ②新型コロナウイルスの感染予防の徹底、その他の感染症への予防対策と発症時の対応
昨年から引き続き新型コロナウイルスの対策として、日常できる手洗い・うがい・手指消毒は継続して行っている。2月グループホーム世話人が新型コロナ陽性。その後、グループホーム利用者6名、入所利用者7名、職員7名（うちグループホーム世話人2名）が感染。感染が拡大しないよう、施設でできる対応を保健所の指示のもと実施。今後も感染予防に努めていきたい。3回目の新型コロナウイルスワクチン接種は希望された職員・利用者へ3月14日・15日に実施。
- ③通院・健診結果、健康状態について家族への適切な情報提供
通院結果については、医務・担当職員を中心に連絡を行っている。健診結果は、結果がそろい次第、ご家族へ連絡を行っている。2回目の健康診断・歯科検診・複合検診の結果を提供。
- ④利用者の服薬管理
服薬忘れ、落葉あり。口腔内から落ちて誰の薬か分からないものも多い。対応の職員は最後まで服薬を確認をするように徹底する。
- ⑤医務業務に係る日誌他記録の管理
日誌、健康診断の結果など、整理・管理できた。
- ⑥医務業務に係る行政関係への適切な申請
重心医療の請求や自立支援医療の申請などを実施。今のところ特に問題なし。
- ⑦協力医療機関への受診、及び各種検診により利用者個人の疾病の早期発見と予防
健康診断で指示があった利用者については、全利用者受診済。
定期的な受診については、職員からの報告・日誌などの情報、担当職員からのデータをもとに状態を報告し、薬などの調整を行っている。
- ⑧職員の職場内における健康異常者の発見及び処置、安全衛生教育と健康診断の実施
下半期は夜勤者健診を実施。健診後のフォローは、担当保健師にて保健指導を実施、受診を促している状況。再検の指示があっているが未受診の職員もいる。

入院状況

R3年間日数

【表4-①】

	病名	期日	期間
1	心不全増悪	(3月15日～3月31日) + 4月1日～6月18日	79日間 (退所・転院)
2	右側肺炎	4月16日～5月6日	21日間
3	注意欠陥多動性障害	4月28日～7月20日	84日間
4	誤嚥性肺炎・尿路感染症	10月31日～12月6日	85日間
5	誤嚥性肺炎・肺血症	11月1日～11月15日	15日間
6	抜歯	11月8日～11月10日	3日間
7	肺がん	12月4日～12月31日	28日間
8	肺炎	12月16日～3月23日	98日間
9	尿路感染症・大球性貧血	3月8日～3月24日	17日間
10	右股関節転子部骨折	3月9日～	23日間
11	左肘頭骨折	3月31日～	1日間
		合計	433日間

R2年間入院日数

【表4-②】

病名	期間
誤嚥性肺炎・急性十二指腸潰瘍穿孔	22日間
誤嚥性肺炎	13日間
薬調整	37日間
薬調整	65日間
腎盂腎炎	16日間
前立腺がん疑い・経直腸的前立腺針生検	1日間
双極性感情障害	85日間
誤嚥性肺炎	8日間
小腸炎・腎盂腎炎疑い	23日間
左変形性膝関節症	48日間
心不全増悪	35日間
右大腿骨頸部骨折	57日間
誤嚥性肺炎	19日間
心不全増悪	57日間
合計	486日間

R3緊急通院状況

() 内はR2年間件数

【表4-③】

診療内科	件数	主な病名
内科	43 (31)	肺炎・風邪・腸炎・脱水・・・尿路感染症・新型コロナ
外科	12 (13)	打撲・骨折
精神科	3 (3)	薬調整
皮膚科	6 (7)	ヘルペス・褥瘡
眼科	1 (1)	角膜炎
歯科	0 (0)	
耳鼻科	2 (2)	外耳炎・耳介腫れ
その他	0 (1)	
合計	67 (58)	

5. 業務部門

事務

利用者支援の充実と法人及び各事業の安定的な運営を目指し、事務部門として以下の点に重点を置く。

- ①職員の人材育成
予定通りに進んだ。業務分掌を再度見直し更なる育成を図る。
- ②地域社会に根付いた事業所の窓口としての丁寧で親切な電話・来訪者対応
年間を通して丁寧な対応を心掛けた
- ③社会福祉法に則った評議員会・理事会の開催
適切に開催した
- ④社会福祉法に則った事務手続きと情報公開
適切に処理した。情報公開についても遅滞なく手続きした。
- ⑤法律に則った労務管理
同一労働同一賃金に係る就業規則の変更済。
労務に関する困りごとはことは、今年度から顧問契約した社労士に相談して適切に対応した。
- ⑥経理規程に則った会計処理と帳簿の整理
会計士に相談しながら適切に処理した
- ⑦内部牽制による適切な利用者預かり金取り扱いの徹底
問題なく手続きできた。銀行の帳票がQRコード様式になったことから支援部での帳票作成を廃止した。
- ⑧障害福祉サービス報酬改定の内容確認と適切な請求事務
変更点を確認し市町村とも相談しながら請求事務にあたった。コロナ対策の補助金、処遇改善の特例補助金についても遅滞なく手続きした。

栄養

- ①利用者個々の嗜好や疾病状況等に合わせた食事の提供
 - ・健康診断、定期受診の結果確認
 - ・利用者の食事についてのケア会議
 - ・給食会議の実施：月に1回（行事食の検討、給食内容等利用者の意見を聞く、食育）
 - ・勉強会：手洗い、うがいについて 食べ物なぞなぞクイズ大会
 - ・嗜好調査の実施、結果報告：8/2～12調査、9/16給食会議にて結果報告

期日	曜日	利用者名	主食	副食	備考
4月23日	金	男性	ご飯	荒刻み食	ケア会議 咀嚼力低下のため 副菜 常食→荒刻み食へ
6月1日	火	女性	ご飯	荒刻み食	ケア会議 咀嚼力低下のため 副菜 常食→荒刻み食へ
9月21日	火	男性	全粥	刻み食	ケア会議 咀嚼力低下のため 二度炊→全粥 カステラ等はミキサーにかけて提供する。
9月27日	月	男性	ミキサー	ミキサー食	ケア会議 咽るため山芋禁止へ
1月31日	月	女性	ご飯	常食	ケア会議 りんご→スライスへ

②委託業者との連携による調理業務の遂行

- ・月間献立表の掲示
- ・食事配膳確認、個別対応確認
- ・委託側との連絡、調整：栄養管理、献立内容、作業工程、人員配置等（月1回以上SV来園）
- ・頂いた食材（野菜・果物）の提供
旬の野菜や果物をいただいた。野菜は料理にプラスしたり、冷凍野菜と入れ替え等し、果物はデザートに提供。
- ・選択食の実施：週に1回実施（別紙添付）
- ・誕生会（誕生会メニュー）の実施：毎月1回

③栄養アセスメントの実施による支援部との連携

- ・栄養アセスメント書の更新：見直し後随時
- ・栄養スクリーニング書の更新：見直し後随時
- ・言語聴覚士からのアドバイスを取り入れ、支援部と協力（食事形態の見直し等）

④厨房内外の衛生管理による食中毒他感染症の予防

- ・検便：月1回（赤痢・腸チフス・サルモネラ菌・腸管出血性大腸菌O-157）予防医学協会にて（陽性者無）
- ・害虫駆除：月1回（ゴキブリ・ネズミ駆除）ダスキンにて（ゴキブリ発生時には薬剤多めに使用）、蟻の駆除剤 竹下係長にて散布
- ・水質検査：2ヵ月に1回（株）クリニカルパソロジーラボラトリーにて（異常なし）
- ・グリストラップ清掃：月1回健康舎にて（排水管つまりのため8月のみ未実施）
- ・食の安全性の確認：委託チーフと味見、配膳チェックを行う。（6、9月毛髪混入、6月形態間違い、1月配膳遅れ 有り）
- ・利用者衛生目標の作成（ポスターを掲示）：利用者に色塗りしていただき食堂、手洗い場に掲示した。
- ・利用者衛生目標に対する支援：毎月給食会議で確認。手洗い・うがい・消毒の声掛けや食事状況確認した。

⑤非常時に備えた食材・飲料水と備品の確保

- ・非常食糧等の備蓄（米、缶詰、飲料水、使い捨て食器）の確認：9/17防災訓練にて職員が保管場所の確認をする。
6月備蓄水入替え、10月缶詰め、お粥、野菜ジュース入替え、3月備蓄水使用分の補充

⑥栄養に関する各種記録の管理

- ・給食会議議事録、給食日誌、検食簿、衛生チェック表、食品受払簿、頂き物チェック表、実施献立表、栄養状況報告書、栄養ケアマネジメント

⑦栄養業務に係る行政関係の連絡と調整

- ・栄養管理状況報告書提出 4/5（指摘事項無）

⑧利用者の嗜好や希望を反映した献立（嗜好調査・給食会議を通して）

- 4月：入職式メニュー、ココイチ特製カレー、花まつりメニュー
- 5月：端午の節句メニュー、つくしんピックお弁当、長崎メニュー
- 6月：入梅メニュー、瓦そばメニュー
- 7月：夏のバイキング、七夕メニュー、たいめいけん特製ハヤシライス、土用丑の日セレクトメニュー
- 8月：開園記念祭、ココイチ特製カレー、日清夏の楽しめメニュー（カツオの炙り漬け丼、チキン南蛮、さつまいもん汁、マンゴー）
- 9月：アイスクリーム会、お月見メニュー、敬老会、お彼岸（おはぎ）
- 10月：ハロウィンメニュー、秋の里まつり
- 11月：防災メニュー（アルファ化米飯、鶏たれ缶、クラムチャウダー、フルーツポンチ、もなか、野菜ジュース）
- 12月：忘年会、クリスマス会、もちつき大会、年越しそば
- 1月：おせち、新年会、日清冬の楽しめメニュー（ご飯、鶏肉の悪魔風、鯖のエスカベッシュ、かぼちゃのスープ、プチケーキ）
- 2月：恵方巻き、おでん会、バレンタイン
- 3月：ひな祭り、お彼岸（おはぎ）、年度末メニュー

・調理実習：月に一回各班持ち回りで実施。

（4月 4班レアチーズケーキ、6月 5班どらやき、7月 4班ハンバーガー、9月 3班パフェ）

※5月 1班リスクレベル5のため中止、8月 2班 11月へ延期

（10月 1班プリンアラモード、11月 2班フルーチェ、4班お好み焼き 12月 3班どら焼き）

※1月 5班中止、2月 3班中止

- ・体によいスープの提案：4月人参のポタージュ 5月大津産さつまいものスープ 6月天草産干椎茸のスープ 7月ビシソワーズ
- 8月冷や汁 9月ポタージュ・ボン・ファム
- 12月くずし豆腐とたっぷりねぎのスープ 1月カリフラワーのポタージュ 2月ねぎのスープ
- 3月あさりと小松菜のポタージュ

※行事担当にてスープの紹介と材料の栄養価、産地等を紹介する掲示物の作成をしていただいた。

※内容がわかるよう、各月スープカードを作成した。

6. 各種会議実施状況

I. ケース会議（各班会議）

勤務体制の変更に伴い、全員揃って会議を行うことができないため、事前に意見を入力することを徹底し会議を進めた。出席する人数が確保できない場合は、無理なく出席できる人数で、検討課題を中心に予定通り会議を実施することができた。決定事項が班職員に周知されていないことや事前の議題の未確認や未入力もあった。次年度は、主任から職員への確実なフィードバックと参加できない職員の事前の意見聴取や議題入力の働きかけを徹底する。

II. 調整会議

実施日		内 容
4月	22日	リスクマネジメント委員会では、昨年度の事故集計に基づき、分析と対策を協議した。洗濯・環境業務では、今年度の変更点及び周知を行う。マニュアルの確認では、今年度より入浴の動静が一部変更になった為、変更分を含めて見直した。業務の見直しとして、夜勤業務の確認を行い、コップ洗いを追加した。その他、新職員の習得状況を確認した。
5月	20日	各班申し送りでは、事故防止の為、フリーにしてよい利用者、見守りが必要な利用者、そばを離れてはいけない利用者の基準作成の協議を行った。又、精神面が不安定になりがちな利用者の支援の在り方を再検討した。マニュアルの見直しでは、感染症マニュアルにレスパーの使用について、シーツ類の洗濯の変更などの見直しを行った。苦情・要望では、入所家族から電話後の折り返しが遅く、施設内での連絡体制がとれていない旨の苦情・要望があったため、再発防止策を周知徹底した。
6月	22日	各班申し送りでは、他利用者の食事を扱う利用者に対しての食事席の変更、糸に強いこだわりがある利用者の方の対応、現在入院しているグループホーム利用者の退院の予定とグループホームから施設入所へ変更するための体制整備について協議した。リスクマネジメント委員会では、服薬忘れにつながるヒヤリハットがあったため、配薬の最終確認者を協議し、行動障害がある方の付き添いやトラブル防止のための環境設定を検討・周知した。その他、30周年記念式典の説明及び周知を図った。新型コロナウイルス関連では、全職員を対象としたPCR検査を実施、新型コロナウイルスワクチン接種についての家族の方への連絡、日程の確認した。
7月	27日	各班申し送りでは、重度の利用者に応じた見守りや付き添いの基準を明確にするための協議を行った。又、利用者のプライバシーを考慮した更衣について状況や場面に応じた更衣の周知、他、談話室使用に関する周知を行った。苦情・要望について、施設の近所の方から公用車の運転について坂と本線合流地点での確認不足で危ない状況があったとの指摘があったため、安全運転について周知した。リスクマネジメント委員会では、行事の際の利用者誘導忘れについての対策を周知徹底し、不明事故では、利用者の行動に対しての対応の仕方を周知した。その他、グループホームの新規体験利用者の周知と30周年記念式典の確認、館内ワックスがけの日程の確認した。
8月	—	熊本県リスクレベル5及び、職員家族に陽性者が出たため中止
9月	28日	各班利用者申し送りでは、利用者のパット使用についての配慮点や対応を協議した。又、夜尿が見られ始めた利用者の方に対しての夜尿防止のための対応と夜勤業務の見直しを行った。その他、グループホーム送迎後の利用者間のトラブル防止のため送迎時間の周知徹底を行い、新規体験利用者を含む送迎の見直しを行った。苦情・要望では、家族への電話連絡において、連絡する時間帯や電話内容の伝え方についての行き違いがあったため、家族へ電話をかける時間帯の配慮点の周知と、伝え方・言葉の選び方などに対する再発防止策の周知徹底を行った。班行事中に人員確認不足で行事に参加できなかった家族からの苦情・要望があったため、行事も含めた日常の中での人員確認の在り方を周知徹底した。その他、グループホーム新規体験利用者の体験スケジュールを周知した。
10月	21日	利用者申し送りでは、休日日課の下着替えができていないという意見が挙がったため、チェック表を作成し活用するなどの対応を協議し、周知した。グループホーム体験利用者についての状況確認及び、入居までのスケジュールを確認した。苦情・要望では、職員の家族の方より、送迎車両の運転の荒さについて話があったため、公用車の運行について注意喚起を行った。リスクマネジメントでは、上半期の事故について、事故件数が減少した要因などを協議し情報共有を行った。その他では、秋の里まつりの進捗状況の確認した。

実施日		内 容
11月	25日	各班からの申し送り事項では、旧棟女性利用者の6時以降の支援について、夜尿起こしや夜尿確認の協議を行い対応を周知した。グループホーム利用者の方のこだわりについての対応を統一するために協議を行い対応を周知した。又、ステージⅣのがんを患ったグループホーム利用者の夜間時の確認や巡回時の対応について周知した。苦情・要望では、職員の家族より、送迎車両の運転が荒いという苦情があったため、公用車の運転や出退勤時の安全運行について周知した。リスクマネジメント委員会では、利用者の実態に応じた歩行器の使用方法について周知した。又、グループホームの服薬忘れについて、現行のルールを再周知した。
12月	14日	利用者申し送りでは、いきいきグループの夕食の移動時間が間に合っていない現状について、状況の確認と改善点を協議し周知した。他、いきいきグループの夕食支援の煩雑さを解消するため、食事席の変更を行った。休日日課に洗濯の手伝いを行っている利用者の方について、対応が不十分で本人の混乱をまねいている現状について協議し、周知した。苦情・要望では、自宅への外出時に破れた衣類で帰ることがあったため、着替えてほしかったという要望があった。当日の責任者で指示と調整を行い最終確認することで周知徹底した。その他、ステージⅣのがんを患ったグループホーム利用者の今後のケアについて検討した。
1月	20日	利用者申し送り事項では、同室者間のトラブルについての要因や今後の課題などを協議し、対応について周知を図った。苦情・要望では、2件挙がってきたため内容と対応の周知を図った。1件目は、ショートステイを利用された方から、「朝食時の服薬を職員へ頼んだが8分ほど待たされた。内服薬は命にもかかわるので長時間待たされるのはおかしい」という苦情・要望であったため、無意味に待たせるような対応とならないよう注意し、引継ぎも徹底するよう周知した。2件目は、外泊時の薬の申し送りが不十分であったことと、家族からの指摘を受け、通院をしたかのように感じるため、患部の状況を見て適正に判断し対応してほしいという要望であった。保護者の方が理解できるような申し送りの仕方、「そのぐらいでよい」という考え方はしないように周知徹底した。
2月	17日	施設内で新型コロナウイルスが発生したため中止
3月	22日	「令和4年度事業計画作成にあたって」という見出しで、中長期計画を含め当事業所の現況と町内の障がい者福祉について、また、次年度の組織体制に関することを施設長より説明。サビ管より各事業計画について、身体拘束適正委員会等、義務化される施策について説明した。

Ⅲ. 役職者会議

月	予 定	実施日	実施議題
4月	・事業報告、各班カリキュラム結果報告について ・30周年企画 ・事業継続計画について	15日	・事業報告、各班カリキュラム結果報告について ・30周年企画 ・その他（コロナワクチンについて、育休・休職職員について） ・入所調整 ・理事長より
5月	・30周年について ・中長期見直しスケジュール作成 ・事業継続計画について	17日	・事業報告、各班カリキュラム結果報告について ・30周年企画について ・理事会等予定について

月	予定	実施日	実施議題
6月	・30周年について・中長期見直し・人事考課見直し・事業継続計画について	23日	・30周年記念式典について ・事業継続計画について ・中長期見直しスケジュール作成について ・その他(PCR検査について) ・理事長より
7月	・事業計画、各班カリキュラム進捗状況の確認・30周年について・中長期見直し・人事考課見直し	26日	・事業計画、各班カリキュラム進捗状況の確認 ・30周年記念式典進捗状況 ・事業継続計画見直し ・中長期計画見直し ・人事考課見直し ・その他(リスクレベルの確認)
8月	・30周年について・人事考課見直し・秋の里まつりについて	23日	・30周年記念式典について ・事業継続計画について ・中長期見直しについて ・人事考課見直し ・秋の里まつりについて ・その他(敬老会・男性T氏体験状況、男性M氏入所・GH体験)
9月	・中長期計画の見直し・人事考課見直し・秋の里まつりについて	21日	・中長期見直し ・人事考課見直し ・職員公用車運転について ・秋の里まつりについて ・その他 ・理事長より
10月	・事業計画、各班カリキュラム中間報告・利用者満足度調査内容決め・秋の里まつりについて	29日	・事業計画、各班カリキュラム中間報告 ・利用者満足度調査内容決め ・秋の里まつりについて ・男性M氏体験利用について ・中長期計画 ・その他
11月	中長期計画の見直し	①15日 ②24日	①②中長期計画作成
12月	事業計画作成会議	① 6日 ②21日	①・人事考課について ・事業計画作成について ・入退職者について ②・中長期計画説明 ・リスクレベルの見直しについて ・退職者について ・事業計画について
1月	事業計画作成会議	① 7日 ②17日 ③27日	①・退職者について ・組織体制(案)について ・その他 ②・組織体制について(主任以上へ説明) ③・重点課題について
2月	事業計画作成会議	2日	・事業計画作成会議 *2日以降、予定してあった会議は新型コロナウイルス感染拡大のため中止
3月	事業計画、各班カリキュラム確認・情報交換会打ち合わせ	15日	・組織体制について ・理事会議案確認について ・職員会議について ・情報交換会について ・利用者状況について ・業務の割り振りについて ・年度末確認事項について

IV. 個別支援会議

上半期なし。

他、栄養に関する事は「5. 業務部門の栄養」に記載。

V. 職員研修

4月	意思決定支援	22日	意思決定支援
5月	災害対策	17日	災害対策
6月	感染症	22日	感染症
7月	防犯	27日	防犯研修
8月	虐待防止／アンガーマネジメント	—	※コロナ予防対策により延期
9月	介護技術	28日	虐待防止／アンガーマネジメント・利用者アンケート結果 ※介護技術は10月に延期
10月	腰痛研修／生活習慣病	① 5日 ②21日	①腰痛研修 ②生活習慣病／介護技術
11月	個別支援計画	25日	個別支援計画
12月	CVPPP	14日	通所利用者発熱による抗原検査のため、館内消毒実施によりCVPPP研修は中止
1月	コミュニケーション	20日	予定を変更し、BCP（感染症）の周知
2月	事例発表	33日	施設内のコロナ対応のため中止

予定に沿って研修を実施してきたが、新型コロナウイルス対応に影響もあり、8月の虐待防止研修が9月に延期となった。そのため、9月の介護技術は10月に実施した。12月のCVPPP研修は、通所利用者の抗原検査における新型コロナ対策により、館内消毒及び、新棟旧棟分離対応を実施したため中止となった。1月はBCP研修に切り替え、新型コロナウイルスが発症した場合の事業継続計画について研修した。2月は施設内で新型コロナウイルスの感染が発生。BCP発動のため事例研究は中止とした。

今年度の研修は、勤務体制の兼ね合いにより対象者全員が出席することが難しいため、ビデオ録画を行い、出席できない職員に対しては、研修のビデオ視聴という形で対応した。ビデオ視聴による研修は当日出席できなくても、別日でビデオを視聴し研修を受けることができたため今後も取り入れる。下半期は、新型コロナウイルスの対応や施設内での発症による対応で予定していた研修を中止することが多かった。

VI. 施設・後見人・家族情報交換会

第1回 : 3月30日

(内容) 施設長より

- ・新型コロナウイルス感染の報告
- ・退職者・新職員挨拶
- ・令和4年度の事業計画作成にあたって

支援局より

- ・令和4年度事業計画について
- ・各班事業計画説明
- ・SNSに関する説明

事務局より

- ・緊急連絡先について
- ・AIG保険について
- ・委任状について

30周年DVD視聴

7. 主要行事

行事名	実施	予算	決算	予算執行率	内 容
第8回つくしんピック	5月11日	25,000	5,164	21%	コロナ禍を考慮し、いきいきグループ、きらめきグループに分かれ実施した。館内放送を用いリモート形式で実施。それぞれの競技に参加した利用者も久しぶりの行事ということもあって元気よく参加されていた。又、昼食は弁当を頼み、競技・食事共に楽しみをもったイベントとなった。
強歩会	6月28日・ 29日	40,000	20,894	52%	コロナ禍を考慮し、28日にきらめきグループ、29日にいきいきグループに分かれ実施した。28日は天候が悪かったため強歩会は中止し、弁当を食べるだけとなった。29日は天候に恵まれたため、施設内を個々のペースで歩くことができた。又、音楽を流すと笑顔で強歩を頑張る利用者もいた。両日とも、昼食は、弁当を注文し、食事も好きなメニューを選び食べることもできた。
30周年記念式典	8月3日	724,000	745,968	103%	AMセレモニー、PMかき氷会・記念写真の撮影を実施。セレモニーでは、30周年の歩みをDVDで上映し利用者・職員と共に30年間の重みを感じることができた。又、退職した職員のメッセージビデオでは、「懐かしいね」「会いたいね」等の感想があり、当時を思い返し懐かしまれていた。かき氷会では、個々が選んだ味のかき氷をおいしそうに食べられていた。記念写真撮影では、シャボン玉の演出を入れたことで利用者也喜ばれていた。

行事名	実施	予算	決算	予算執行率	内容
敬老会	9月15日・18日	60,000	55,794	93%	今年度は、15日に敬老会、18日に地域の弁当配布を行った。敬老会では、65歳以上の方皆で写真撮影をした後、いきいきグループ、きらめきグループに分かれ敬老会を実施。65歳以上の方や還暦者等の紹介をDVDで行い、利用者の方も笑顔で視聴されていた。昼食は、ちゃわんむし、てんぷらなどの敬老会メニューで食事を堪能された。18日は、平川地区の敬老者へ弁当配りを実施。地域の方も「今年も楽しみにしていました」等の言葉も頂き、地域の方も楽しみにされていた行事であったと実感することができた。
福祉まつり	中止	115,000	0	0%	新型コロナの影響により中止。
利用者スポーツ大会	中止	4,000	0	0%	新型コロナの影響により中止。
秋の里まつり	10月28日	330,000	260,696	79%	コロナの影響もあり、利用者・職員のみでの開催となった。新職員出し物、各班出し物では、それぞれの班の趣向を凝らした出し物であり、利用者の方も一緒に踊ったりみんなでお楽しみすることができた。午後からの抽選会は中庭で行い、抽選会の雰囲気を楽しむことができ、一喜一憂する場面に利用者の方も盛り上がっていた。利用者の方からも「祭り楽しかったよ」等の言葉も聞かれ、利用者・職員が一丸となって楽しむことができた。
くまもと障がい者芸術展	11月16日～11月21日	2,000	0	0%	今年度、個人作品を24点出展する。24点共に利用者個々の嗜好や特徴が出ており、味のある作品に仕上がっていた。コロナの影響で利用者の方の見学はできなかったが、K氏の作品(橋の写る風景)が「心に残った作品」として受賞された。K氏も受賞した作品を職員へ見せたり、喜ばれていた。出展後は館内の廊下に飾り、たくさんの方に見ただけのように展示した。次年度の出展へ向けて、取り組みを始めようとする利用者の方もおられ、意欲の向上や刺激にもつながっている。
クリスマス会	12月23日	115,000	71,989	63%	コロナ禍を考慮し、外部のボランティアの参加は無し。お楽しみ会は、学習訓練棟にて実施。利用者参加型のクリスマス会をテーマにダンスを全利用者で踊ったり、ビンゴゲームをみんなで楽しんだ。又、職員の生演奏披露もあり、趣向を凝らしたクリスマス会となった。利用者の方も「ダンスが楽しかった」「ビンゴで賞品が当たった」等の言葉もあり全利用者・全職員で楽しむことができた。食事会はグループごととなったが、たくさんの種類のメニューで、量も丁度よく利用者の方も満足されていた。プレゼント渡しを午後に設定したことで、利用者の方のペースに合わせたクリスマス会を実施することができた。

行事名	実施	予算	決算	予算執行率	内 容
もちつき大会	12月28日	85,000	64,563	76%	コロナ禍を考慮し、グループ別で餅つき会場を2ヵ所準備し実施した。グループ別で餅つきをすることで、全利用者が餅をつくことができた。又、餅つきの光景を見て利用者の方も笑顔を見せたり、自ら餅をつきに來たりと楽しんで参加することができた。昼食のみたらし味の餅や中華まんも利用者に好評で美味しかったという言葉が聞かれていた。
防災訓練（総合訓練）	9月17日	—	—	—	休日体制（日中）において、談話室のレンジより火災が発生したと想定し、12名の職員で消火、通報、避難に対応する。初期消火への対応は2名が駆け付け、1名が消防署との連絡にあたった。その間、他職員は避難開始に備え、スムーズに避難が出来るよう、車椅子の確保、避難先の安全確認を行った。各棟逃げ遅れが無いよう最終確認を行い、7分52秒で避難を完了。声を掛け合いながら対応することが出来ていたが、利用者が誤って館内に戻らないように、また少しでも煙や延焼速度を食い止めるために最終確認者が通路ごとの扉や間仕切りを閉めてくると尚よかったことを振り返る。
ワックスがけ	①7月27日 ②8月5日 ③8月12日	235,000	148,500	63.2%	ワックスがけを業者に依頼し実施した。1回目のワックスがけは、7月27日に新棟館内を中心に実施。2回目のワックスがけは8月5日に旧棟館内を中心に実施した。又、8月12日にグループホームのワックスがけを実施し、今年度の予定は終了。

各班統一行事

年間で予定していた5行事を実施した。季節行事によっては、コロナの影響で実施できなかった班もあったが、施設内で楽しめる季節行事を考え各班ともに実施することができた。次年度も、コロナ禍の中でも利用者の方が楽しめる内容の季節行事を考え、利用者の楽しみや生きがいにつなげていく。

各班統一行事予算執行状況

班	予算額	使用状況	執行率	内 訳				
				花見	七夕	バレンタイン・ホワイトデー	ひな祭り	参拝
1班	¥17,000	¥6,962	41.0%	—	¥3,159	¥1,697	—	¥2,106
2班	¥35,000	¥16,318	46.6%	¥4,960	¥4,122	¥4,485	—	¥2,751
3班	¥14,000	¥10,168	72.6%	¥1,924	¥1,892	¥2,196	¥2,176	¥1,980
4班	¥29,000	¥19,886	68.6%	¥4,875	¥3,459	¥4,082	¥4,875	¥2,595
5班	¥24,000	¥18,160	75.7%	¥8,722	—	¥3,499	¥2,802	¥3,137

8. まとめ

今年度上半期は、新型コロナウイルスの流行により県のリスクレベル5が続き、在宅利用者の利用制限、外出・外泊・面会の制限が長く続いた。又、下半期においてもその状況は改善されず、1月頃より職員、利用者ともに濃厚接触者となることや職員自身が感染することが出てきた。2月に入り、施設内で新型コロナウイルスが蔓延し、BCPを発動した。緊急時の体制が長く続き、生活介護の利用率も2月は89.8%と今年度最低の利用率となった。利用者・職員含めて20名の感染者が出たが重症者が出なかったこと、更なる拡大に至らなかったことは幸いであった。各棟分離のユニット制、感染者・濃厚接触者の別棟での隔離、各棟対応職員の固定など、実際に経験から得たことをBCPに反映させていく。

ワクチン接種に関しては、5月～6月にかけて65歳以上の利用者の2回の接種が終了。7月～8月にかけて職員と64歳以下の利用者の接種が終了。3回目の接種については、2月に予定をしていたが、施設内で感染者が発生したこともあり3月へ延期した。新型コロナウイルスに感染した利用者・職員以外は3回目のワクチン接種まで無事終了することが出来ている。

利用者の増減では、疾病の悪化により医療行為が必須となった方の退所、グループホームから入所へ移行した方、在宅からグループホームへ移行した方、入院治療中に容態が急変し逝去された方、在宅から生活介護を利用されていた方の介護保険へ移行、他施設への入所による契約終了など、利用者の入れ替わりと動きが多い1年だった。コロナ関連での生活介護利用率の低下に加え、生活介護の契約者数の減少と入所利用者逝去により、新規契約者の確保が急務となる。新規入所者については、早急に入所調整会議を行い新たな入所者を確保していく。生活介護については、相談支援事業所を通し早い段階での新規利用者の確保につなげていくこととする。

人材関連では、新職員5名が入職したが、5月末までに2名が退職することとなった。又、9月に上がった3件のパワハラ案件に対して、一連の対応は終了したが、今後の状況は確認していかなければならない。現職員と新職員が安心して働き続けることができるよう環境を整え、利用者支援に専念できる職場であることを目指していく。

次年度は当年度見直した中長期計画を職員へ周知し、明確にしたうえで、利用者が生活しやすい環境と設備の確保、職員が働きやすい体制の整備、外部から興味を持っていただける魅力ある施設づくりを目的としたところで中長期計画に則った事業運営とする。